Q16 卵巣刺激法の自然周期法や低刺激法とはどのような方法でしょうか

A 体外受精における卵巣刺激は、採卵する方法や使用する薬剤によって「Natural cycle IVF」、「Modified natural cycle IVF」、「Mild IVF」、「Conventional IVF（従来法）」に分類されています。「Natural cycle IVF」、「Modified natural cycle IVF」、「Mild IVF」の3つは自然周期採卵といい、従来法と比較して費用や卵巣過剰刺激症候群（ovarian hyperstimulation syndrome：OHSS）のリスクが軽減されるのではないかと期待されています。

Natural cycle IVF

薬剤を使用せずに自然な月経周期による自然排卵の前に採卵します。薬剤を使用していないので、卵胞の発育や排卵のタイミングを観察することが難しい方法です。採卵数は通常１個で、予測よりも早期に排卵が起こると採卵ができない場合があります。

Modified natural cycle IVF

採卵の成功率を高めるために排卵のタイミングを薬剤でコントロールする方法です。排卵を抑制するため主にGnRHアンタゴニストが使用されますが、鎮痛剤として使用される非ステロイド性抗炎症薬（NSAIDs）を使用する場合もあります。この方法による採卵数は通常1個です。

Mild IVF

１周期当たりの採卵数を増やしていくと、ある程度までは体外受精の成功率も高くなっていくことが報告されています。Mild IVFはクロミフェンクエン酸塩やレトロゾールなどの内服、FSH製剤やhMG製剤などの少量投与によって採卵数を増やします。

近年、特に低卵巣反応の患者さんに対してクロミフェンクエン酸塩を用いたmild AVFやGnRHアンタゴニストを用いたModified natural cycle IVFは、Conventional IVF（従来法）と比較して出生率に差が見られなかったという報告があります。欧州生殖医学会のガイドラインでは低卵巣反応の患者さんにMild IVFの実施を推奨しています。

【参照生殖医療ガイドライン CQ】
CQ11：体外受精法の卵巣刺激における注意点は？（卵巣刺激法・LH サージ抑制法・検査）自然周期・mild ovarian stimulation は有効か？